



磯見 博・井上英二
水野篤行・中条純輔

昭和49年7月1日付で 地質調査所に新しく海洋地質部が発足した。併任者を含めて30数名のメンバーからなり 次のような3課9研究室から構成されている。

海洋地質部 (部長 磯見 博)

海洋地質課 (課長 井上英二)

- 第1研究室 海底地質層序・岩石の研究
- 第2研究室 海底地質構造の研究
- 第3研究室 海底地形の研究 海洋地質に関する資料の総括

海洋鉱物資源課 (課長 水野篤行)

- 第1研究室 海底堆積物の研究
- 第2研究室 海底鉱物資源の探査および探査技術の研究
- 第3研究室 海底堆積物・鉱物資源の鉱物学的・地球化学的研究

海洋物理探査課 (課長 中条純輔)

- 第1研究室 海洋地震探査・音波探査その他水中音響による探査技術の研究
- 第2研究室 海洋重力探査・海洋磁気探査技術の研究
- 第3研究室 海洋物理探査のデータ処理技術の研究

地質調査所が海洋地質の調査研究を本格的に指向しはじめたのは昭和44年のことであった。昭和47年7月になってはじめて地質部のなかに海洋地質課の新設が認められ 本格化のための核が誕生した。翌年にはさらに1課が増設されて 海洋地質第1課：第2課となり ひきつづき 本年、さらに1課の増設とともに部の新設が認められ 海洋地質の調査研究体制の整備・拡充が一段落したことになる。

部門として 10名が新規に増員された。さらに 地質調査所を主たる使用者として建造された1,800トンクラスの地質調査船『白嶺丸』(金属鉱業事業団所有)も さきに紹介したように 49年4月より就航し 本年度は200日間 地質調査所の調査計画にしたがって運航される。すでに 相模灘付近 南方諸島 紀伊水道南方3海域の海底地質図・同概査図の作成を目的とした調査航海を行い 大きな成果を得た。結果はとりあえず地質調査所クルーズ・レポートとして印刷・公表されるほか 海底地質図・海底地質概査図 その他諸種の報告 論文として公表される予定である。就航以来日本周辺海域を調査してきたが 8月からは65日間 深海底鉱物資源研究のために ハワイ南西方海域に初の外航を行なう予定である。白嶺丸による調査は 地質調査所の海洋地質調査研究に大きな転機をあたえ それを飛躍的に発展させるものとなろう。

これまで 内湾域から深海域におよぶいくつかのプロジェクトによって研究が行なわれてきた。本年度から出発するものを含め 大小の次の研究があるが これらのうち 第1と第2のものがとくに2つの大きな柱をつくっており 白嶺丸で行なわれるものである。

- 深海底鉱物資源探査に関する基礎的研究(工科院特研)
- 日本周辺大陸棚海底地質総合研究(同上)
- 汚染底質の調査技術に関する研究(公害防止特研)
- 紀伊水道の海底地質調査(科技厅特調費)
- 海底軟弱地盤の調査技術に関する研究(同上 計画中)
- 海洋地質の研究(経常研究)
- 応用地球物理の研究(音波探査技術の研究および船上情報処理の研究 経常研究)
- 潜水調査船「しんかい」による海底地質の研究

海洋底は沿岸浅海部・深海部をとわず 今後ますますわれわれの生活と直接的なかかわりあいをもつことになる。すなわち 深海底のマンガン団塊その他の資源的利用 さらに空間的利用 またその反作用としての環境破壊等に関する社会的要請はますます増大するであろう。それにたいし 基礎となる海洋地質に関するわれわれの知識は現在まだあまりにも貧弱であり 適確な系統的資料を早急にととのえ 一般に提供することが海洋地質部の急務と考えられる。これらの資料は上記の諸面のみならず もちろん海底に関する科学的諸問題の解明にも大いに貢献することが期待され またそのように努力したい。

この間 幸い 人員増も認められ 3年間で海洋地質

(筆者らは 海洋地質部)